

## 松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会〔第7回〕会議録

1. 附属機関等の会議の名称 松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会〔第7回〕

2. 開催日時 平成31年1月24日(木) 19時00分から19時45分まで

3. 開催場所 松川町役場 2階 大会議室

4. 出席者

【松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員】※敬称略

入野雅貴、宮下壽孝、松澤吉保、伊藤正一、松尾貢、鈴木峰好、林貞喜、小椋吉範、米山俊孝、坂本勇治、寺沢秀文、佐藤清、大島愼男、中島芳夫、宮下彰、北林誠、小林幸彦  
(欠席者：橋爪和也、小澤文人、清水真規子、名取裕美)

【JR東海】

中央新幹線建設部名古屋建設部 古谷担当部長

中央新幹線長野工事事務所 平永所長、村井係長、小木曾主席、工藤主席

// 大鹿分室 太田垣分室長、木村主席

【長野県飯田建設事務所リニア整備推進事務所】

小牧次長、胡桃調整課長、青柳課長補佐

【役場】

深津町長、吉澤副町長、下沢課長、佐々木係長

米山(清)課長、矢沢課長、小木曾課長、加山局長

5. 議題(公開)

(1) 経過説明と現状の報告

① 生東地区の発生土置き場

② ガイドウェイヤード(松川インター企業団地)

(2) 建設発生土の活用先について

6. 非公開の理由(会議を非公開とした場合)

—

7. 傍聴人の数

13人

8. 会議資料の名称

・会議次第、資料(町作成)

## 9. 会議の概要

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 正副委員長の選出
- (4) 会議事項  
上記のとおり
- (5) その他
- (6) 閉会

## 10. 会議録

### (1) あいさつ

(深津町長)

本日は、皆様方それぞれお忙しい中、多くの方々にご出席いただき、感謝申し上げます。

本日の会議は、昨年開催して以降その後の動き等の経過についてご報告させていただく。皆様方より今後の方向性について忌憚のないご意見をいただきたい。

(JR東海 古谷担当部長)

日頃は、リニア中央新幹線の事業にあたり、皆様のご指導とご支援を賜り感謝申し上げます。

昨年は、着実に工事を進められたのと工事を行っている箇所を少しずつ広げられた一年であったかと思う。しかしながら、工事を進めるにあたっては、沿線住民の方々、地域の関係の皆様、地権者の方々に丁寧な説明、分かりやすい説明が不可欠。今後もそういったところを念頭に置きながら、しっかりと説明を行い、信頼関係を築きながら、また理解をいただきながら進めてまいりたい。本委員会の皆様ともしっかりとコミュニケーションを図って、皆様のご指導をいただきながら事業を進めてまいりますので、よろしく申し上げます。

(長野県 小牧次長)

日頃より、リニア中央新幹線の調整業務にご協力いただき御礼申し上げます。

年が明け、2027年の開通まであと8年となった。県内の総延長53kmのうち、およそ60%が契約となり、いよいよ工事も本格化する段階となった。県では、発生土の活用先の課題調整や関連道路整備を着実に進めるとともにリニア新幹線を活かした地域活性化についても取り組んでまいりたい。

### (2) 正副委員長の選出

第6回目まで務められた森谷委員長、伊藤副委員長の退任にともない、正副委員長を選出。「松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会設置要綱」の規定に基づき、米山俊孝氏を委員長に、伊藤正一氏を副委員長にそれぞれ互選する。

### (3) 会議事項

#### (1) 経過説明と現状の報告

##### ①生東地区の発生土置き場

〔佐々木係長より説明〕

〔補足説明〕

(小椋吉範委員)

私ども最初は3か所を要望してきたが、本洞地籍、つつじ山地籍は、特に下流域の福与地区の皆様が大変怖いといった懸念を持たれていたことも考慮しつつ、また土を受け入れる見返りとして搬入する道路を改良していただきたいというのが生東区の長年の念願であり、このことをJRへ要求していきたい。当初完全2車線化と言ってきたが、1か所ということになり、とにかく道路改良していただきたい。そういう願いを持ちつつ、また埋めたてる土地の地権者の思いもあり、1か所をぜひともお願いしたい。

(鈴木峰好委員)

昨年2月のリニア対策委員会以降、生田3区の話し合いを重ねてきたが、この会合は発生土置き場として情報提供した生東3か所の候補地が適地であるかどうかを生田3区で検討するということで行ってきた。その結果、昨年9月に開かれた会議において、候補地3か所のうち本洞とつつじ山については候補地としては適地ではないとの判断により、2か所を取り下げる合意をした。生東区においては適正で賢明な判断をしていただいたと思っており、感謝している。残る丸ボッキの適否の判断は、同じく11月に行われた会議において、福与区としてはまだまだ判断は難しいとした。生東区は丸ボッキを候補地として再提出とした判断があった。道路改良が悲願だとの主張は分かるが、福与区としてはまだまだその内容について納得のできるころではない。今後、新しい枠組の中で判断していく形となっている。生東区には、今後主体的となって進めていってほしい。

(深津町長)

今朝の中日新聞のトップ記事に「リニア残土受入れ難航、土砂崩れ懸念」と。非常に難航していることが書かれているが、まさにその通りだと思った。1月15日には町村長とJR東海との意見交換会があり、私も「松川町においても地域の皆さんの理解が得られていない。」という状況下のお話をし、またJR東海に対しては、なお一層の地域に入り込んだ地域の皆さんの不安を解消するようにしっかりやってほしいと発言をした。副社長からは、力を入れていくという答弁であった。3区の協議会の経過については報告のあったとおりだが、3か所あった候補地については、2か所については取り下げ、丸ボッキについては適地であるの判断はしかねるというものだった。あそこが適地であるのか適地でないのかの判断はこれからしっかりとJR東海の説明を聞いて協議していくということで終息している。福与区の皆さんからは、対策委員長・区長名で非常に不安であるということで、強い口調で何回も反対であると、もう少ししっかりとした生東区としての利活用を考えて、その後どういった地域づくりをしていくのかということ、それから安全安心というものについて、まだはっきりしないということで話があった。また、生東区の方では昨年一年間の中で対策委員長が交代をされ、今の小椋区長が委員長となり、生東区を挙げてこの事案に前向きに取り組んでいきたいということで話があった。そして、あそこを埋めることで

道路改良、少しでも平ら、あるいは寺沢川の整備等についてお願いをしていきたいと、地域としての願いがこもった発言もあった。そうした中で、上流部下流部、どちらの皆さんもまだ安全である、あそこが適地であるとしてJR東海へ返事をするまでにはまだまだほど遠いというのが現状。そうした中で、丸ボッキについては今一度スタート時点に立って、あそこについてのJR東海としての考え方、また道路環境についても県の方にもお願いをしていかななくてはならないが、しっかりと聞いた中で判断をしていくとしたところで終息した。ぜひとも、上流部下流部どちらにしてもまずは安全安心で、あの場所が適地であるという段階となつてはじめて今度は運搬のこと、色々なことが問題となってくる。これからの懇切丁寧な説明をJR東海にぜひともお願いしたい。

〔質疑応答〕なし

## ②ガイドウェイヤード(松川インター企業団地)

〔米山産業観光課長より説明〕

〔補足説明〕

(深津町長)

企業団地の事業主体は松川町である。進め方等について、私も地元清北自治会へ出向き、ご迷惑をお掛けしたと頭を下げてきた。当該地については、長い間情報収集や働きかけは行ってきたが、なかなか契約成立までには至らなかったのが現状。また、地域の皆さんとの協議会を設けるのが遅かったと反省している。情報をお互いに共有して、地域の皆さんが納得していただく中でできればよかったと反省している。最終的には第1種農地ということで判断し断念せざるを得ない。もし、農振農転を計って進めていくには、地域未来投資法か農村産業法のどちらかの法律を使って進めていくということで県からもアドバイスいただいている。JR東海にもご迷惑をお掛けして大変申し訳なかったが、ガイドウェイについては賃借ということで、あと土地利用の課題等が控えている。もちろん、協議を進める中で、第2種農地であるという単独の判断ではなかったわけだが、最終的には第1種農地であるという判断をした。現在、協議会を設けるように話ができているが、地域の皆さんと話をする中で、企業団地という言葉がどうしても企業イコール製造業という形が思い浮かべられるが、それを製造業ということだけではなくて、幅広い物の考え方の中で研究所、教育関係、公共施設だったり、あるいは六次産業化が進むような農業関係であったり、もちろん製造業も含める中で範囲を広げて、やわらかい頭の中で協議をしていきたいと思っている。協議会が設置できた段階で、東京・名古屋事務所や地元企業から寄せられている今町が持っている様々な情報、そういったことをオープンにして地域の皆さんと協議を図って進めて行ければと思っている。

〔質疑応答〕なし

## (2) 建設発生土の活用先について(再依頼)

〔佐々木係長より説明〕

〔補足説明〕

(長野県 胡桃調整課長)

間口はこれまでも広げていたが、他の市町村も含めて分かりづらいということから、念のために出した文書である。

〔質疑応答〕なし

(JR東海 古谷担当部長)

「①生東地区の発生土置き場」については、今まで町の方から地元の情報について聞いていたが、今日改めて正式に最終合意事項ということで、2か所の本洞、つつじ山線は不適とすることで合意、丸ボッキについては適否について検討を行うことで合意ということを正式に伺った。候補地をいただいた地元と松川町の判断ということで、当社としては受け止める。丸ボッキについては、当社において設計を終えており、今後当社の方より説明をさせていただく機会をいただければ、安全性や防災設備について丁寧に説明させていただきたいと思っているので、引き続きそのような機会を設けていただけますよう、よろしく願いしたい。また、松川町の中には、生東地区以外の発生土置き場候補地があるので、そちらの方も引き続き関係者の方々と調整させていただければと思っているので、よろしく願いしたい。

「②ガイドウェイヤード(松川インター企業団地)」については、農振除外等の農地法の手続きの結論から断念するという町の判断なので、JR東海としても受け止めさせていただく。引き続き企業団地ということで誘致をされるということなので、誘致が進んで当社としてリニアの発生土の活用ができるという状況になってくれれば調整させていただき、有効な活用先として使わせていただければと思うので、引き続き調整、協議をお願いします。

(4) その他

なし

以上